

音更町総合計画推進委員会会議結果（要旨）

| | |
|-----------|--|
| 会議名 | 音更町総合計画推進委員会（平成24年 第4回） |
| 開催日時 | 平成24年11月22日（木） 午後7時から午後8時45分 |
| 開催場所 | 音更町役場庁舎4階401・402会議室 |
| 委員出席者 | 津久井委員、町山委員、前田委員、畠委員、栗原委員、所委員、 藤川委員、西嶋委員、杉山委員、畠山委員、小川委員 |
| 町側出席者 | 《事務局》 杉本企画財政部長、渡辺企画課長、定村企画調整係長、 松井企画調整係主任、惣万企画調整係主任、阪本企画調整係主任 |
| 議題・諮問内容 | 1 委員長あいさつ 2 議件 重点施策推進管理評価調書の検証結果の取りまとめについて 3 その他 |
| 会議資料 | 資料1 総合計画推進委員会検証結果まとめ 資料2 第5期総合計画：重点施策推進管理評価調書 平成24年度音更町総合計画推進委員会の審議結果について（通知文） 音更町総合計画推進委員会についての意見（案） ※議案についてはホームページに添付しています。 |
| 出された主な意見等 | （重点施策推進管理評価調書の検証結果の取りまとめに対して出された意見等） 委 員：農業の法人化への推進について、違う用途に使用することを防ぐための法改正などの話をする必要はないのですか。 事務局：法人化したからといって農地が農地でなくなるということは、農地法により守られておりますのでないと考えております。音更町でも実際に法人として経営している農家もおります。強制できるものではないので、情報提供など通して推進していくこととなります。 委 員：法人化の利点も色々あると思いますが、当然、家族形態を選択する方、法人化で規模拡大を図る方など様々だと思います。そのように選択できる体制の整備を推進するという意味合いで法人化と表現していますが、全面的に法人化を進めると間違っただ方に読めてしまいますと意図とは違ってきますので、書き方を変更する必要があると思います。 委 員：前回、道の駅に対する評価が低かったかと思いますが、現況の道の駅では少し中途半端な状態ではないかと思えます。この辺りの整理も検討していただきたいと思えます。 事務局：調書ケの「農畜産物や地場産品などの販売や食に接する機会を増やすために、新たな魅力を発信する拠点づくりに努めます。」というのが、道の駅を含めた音更町の魅力を発信する拠点を作る施策であり、その推進状況が2の着手した程度となっておりますので、検討を進めていくべきだというのはご意見として承ります。実際に今年から各担当者が集まって問題点を整理したり、場所の検討など進めています。 委 員：ウの項目で「太陽光、バイオマスなどの新エネルギーの利用を進めます。」とありますが、その他の新しいエネルギーに対する関わりはしないのですか。例えばLNGなど新しいエネルギーの調査研究などが必要なのではないですか。 |

事務局：町で新エネルギービジョンを策定した際、日照時間の関係上、町で一番有効なのが太陽光発電となり、太陽光を中心に補助制度などで推進している状況です。しかし、他の新エネルギー資源の検討も必要と思います。

委員：自主防災組織か町内会単位の中で万一の状況に備えて、それぞれお互いの情報を把握していた方が救える命が沢山あると思います。個人情報であっても共有化していくということを進めることが必要になってくるかもしれませんし、今よりもっと画期的な良い方法があるかもしれません。防災に関しては個人情報保護にとられない行政の仕組みを考える必要があると思います。

委員：町内会や自主防災について、このまま進めていけるか不安があります。組織から溢れてしまう人達に対しては町が個別に対応する方法を考えていくことも課題になると思います。連絡などもある程度、町から直接行うことも加えてないと、同じ人が住み続ける時代ではないので、町内会に全て任せるとするのは無理があると思います。特に新しい団地は人の出入りが多いのでなかなか組織がまとまらないと思います。町内会からはずれた人をどうするかということも含めての防災計画が必要になるものと思います。

委員：ストーカー行為や子どもに対する変質者対策は、まちづくりの中で重要なことだと思います。安全に快適に過ごせるまちづくりの観点から言っても防災だけに限定するのはどうかと思います。時代が変われば新しい項目を追加することも必要になると思います。

委員：学童保育所は小学3年生まで預けられると思いますが、働く家庭が増えていることにより4年生以上も預けられる施設を作る考えはありますか。

事務局：今後、法律の改正により学童の考え方が変ることになるかと思います。

委員：コミュニティバスの利用率はどの程度ですか。

事務局：年間で約3万人です。

委員：コミバスがもっとたくさん利用されるように広報活動をしっかりとさせていただきたいです。少なくともバス停まで徒歩で1分から3分程度の沿線場に住んでいる方や特に高齢者にはチラシを配付するなどの具体的な方策をした方が良いと思います。

委員：コミバス利用者へのアンケートを実施したことはありますか。

事務局：乗られている方に対してはあります。

委員：男女共同参画推進計画についてはまだ未策定とのことですが、町の審議会等の委員男女比を定めるなどできる箇所からでも進めていただきたいと思います。

委員：音更のように施策の外部評価をしている市町村はありますか。十勝管内でなくてもどこかあれば教えてください。

事務局：外部評価を取り入れている市町村は多いです。

委員：外部評価を取り入れている他の自治体との意見交換があると良いです。具体的に評価を進める上で、どの程度時間を掛けているのか、また、良い方法や見やすい方法等があれば教えてもらえたらと思いました。

委員：重点施策に分けて評価する仕組みですが、もう少し大きいくくり「分野」で評価をしていく方が解りやすいと思います。例えば、高齢者福祉の問題や男女共同参画の問題などコミュニティでの分野について音更町は満足できる水準まで達して

いるのかという評価の方が良いのではと思いました。6番のコミバスの問題で、コミバスが良かったかどうかやスクールバスの問題で見ると、公共交通機関が町内でどれだけ充実しているのかが問題だと思います。「オンデマンドバス」の研究は世界中で行われており、マサチューセッツ大学の研究では、携帯電話でバスを呼び、自分のいる場所まで来てもらい目的地まで行くバスとして、今のコンピュータを用いて人口5万規模の町ですとおおよそ採算が合う計算とのこと。コミバスやスクールバス以外にも、民間の送迎バス等も全て含めて、音更町の子どもが図書館へ行きたい時に利用できる、車のないお年寄りが病院へ行きたい時にいけるなど、どうしたら利便性を獲得できるかが公共交通機関を整備していく本来の課題と思います。

委員：推進委員会で検証する項目は58項目あり、それを事務局だけで評価する項目を決めるのではなく、もうその時点で外部の者を取り入れてみて「この件について検証していただく」など意見を入れてから委員会に掛けていただくと少しはやりやすいのかなと思います。大きく絞るか、小さく絞るかは別として、町が用意したものを始めから評価するのではなく、有識者が数人で、内容をもう少し絞ってから我々が評価する方が委員会としても意見が出やすいのではないかと思います。具体的な話ではないですが、私はその様に感じました。